

執筆者紹介

岡部 達味 Okabe Tatsumi

一九三二年生まれ。東京都立大学名誉教授、元専修大学教授。国際政治、中国研究、『国際政治の分析枠組』、『日中関係の過去と将来』、『中国の対外戦略』

呉 介民 Wu Jie-min

一九六二年生まれ。台湾・中央研究院社会学研究所副研究員、清華大学当代中国研究中心 (Center for Contemporary China) 執行委員。政治社会学、政治経済学、当代中国研究、台湾研究。「永遠的異郷客」、公民身分差序與中国農民工階級」、『Rural Migrant Workers and China's Differential Citizenship: A Comparative-Institutional Analysis』 [中国因素與台湾民主]

曾 熾芬 Tseng Yen-fen

台湾大学社会学系教授。国際移民。「重新思考公民身份的政治面向—移居中国之台湾人公民身份政策為例」、『Reconfiguring Citizenship

and Nationality: Dual Citizenship of Taiwanese Migrants in China's Shanghai Rush: Skilled Migrants in a Fantasy City's

松本 はる香 Matsumoto Haruka

一九七二年生まれ。日本貿易振興機構アジア経済研究所副主任研究員、北京大学国際関係学院訪問学者。冷戦外交史、中国外交、兩岸關係。「冷戦後における中国の多国間外交の展開」、『中国のASEAN外交と多国間主義の実像—アジア太平洋地域の協調的安全保障から「東アジア共同体」構想へ向け』、『台湾の民主化過程における「二つの中国」の変容』

薛 化元 Hsueh Hua-yuan

台湾・政治大学台湾史研究所特聘教授兼所長。中国現代憲政史、台湾現代史。「民主憲政与民族主義的辯証發展—張君勱思想研究」、『自由中国与民主憲政』、『戦後台湾歴史閲覧』

王 泰升 Wang Tay-sheng

一九六〇年生まれ。台湾大学法律学院特聘教授、台湾・中央研究院台湾史研究所・法律学研究所研究員。台湾法律史、伝統中国法、法律と社会の研究。『日本統治時期台湾の法政

革』、『台湾法律史概論』、『The Legal Development of Taiwan in the 20th Century: Toward a Liberal and Democratic Country's

許 雪姬 Hsu Hsueh-chi

台湾・中央研究院台湾史研究所研究員。清代制度史、台湾家族史、台湾人の海外活動、二二八事件及び白色テロ。「台湾光復致敬団」的任務及其影響—「去奴化、趨祖国化」の書写—以戦後台湾人物伝為例』、『林獻堂《環球遊記》與顏国年《最近欧美旅行記》の比較』

侯 孝賢 Hou Hsiao-hsien

一九四七年生まれ。映画監督。一九八〇年代の台湾ニューシネマを代表する監督。一九八九年『悲情城市』にてヴェネチア国際映画祭金獅子賞を獲得。台湾の近代社会の複雑な諸相を精妙なタッチで描き出し、つねに斬新で意欲的な作品を発表し続けている。最近の作品としては『珈琲時光』(二〇〇三)、『百年恋歌』(二〇〇五) などがある。

朱 天文 Chu Tien-wen

一九五六年生まれ。小説家、脚本家。一六歳で小説家としてデビュー。一九九四年『荒人

手記』にて第一回時報文学百万小説賞受賞。自著「小畢的故事」(一九八六)が映画化された際、助監督であった侯孝賢と出合い、「風櫃の少年」(一九八三)以降侯監督のパートナーとなる。「悲情城市」では、脚本のシーン割りを執筆、「百年恋歌」では侯孝賢との共同執筆で金馬賞最優秀オリジナル脚本賞にノミネート。小説の邦訳としては『安安の夏休み』『世紀の華やき』『荒人手記』などがある。

張小虹 Chang Hsiao-tung

台湾大学外国語文学系特聘教授。女性主義文学、文化研究。『假全球化』『身体褶字』『資本主義有怪獣』

藤井省三 Fujii Shoza

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科教授。日本学術会議会員。二十世紀中国語圏の文学と映画。『中国映画―百年を描く、百年を読む』『村上春樹のなかの中国』『魯迅―東アジアを生きたる文学』

若林 正文 Wakabayashi Masahiro

一九四九年生まれ。早稲田大学政治経済学術

院教授。現代台湾政治論、台湾近現代史。『台湾の政治―中華民国台湾化の戦後史』『台湾抗日運動史研究 増補版』『台湾―分裂国家と民主化』

陳培豊 Chen Pei-fong

一九五四年生まれ。台湾・中央研究院台湾史研究所副研究員。台湾文化史、台湾文学史。「同化の同床異夢」―日本統治下台湾の国語教育史再考』『日本統治と植民地漢文―台湾における漢文の境界と想像』『演歌の在地化―重層的な植民地文化からの自助再生の道』

陳偉智 Tan U-i

New York University, Ph.D. candidate in History. 台湾近代史、植民地人類学、歴史と社会理論。「患ったのは時代の病」―鶏籠生とその周辺』『自然史、人類学與台湾近代』『種族知識的建構―一個全球概念的台湾史分析』『戦争、文化與世界史―從吳新榮〈獻給決戦〉一詩探討新時間空間化的論述系譜』

楊彦杰 Yang Yan-jie

一九五一年生まれ。中国閩台縁博物館研究員兼館長。台湾史、客家文化。『荷坵時代台湾

史』『閩西客家宗族社会研究』『台湾省編訳館 檔案』(共編)

季進 Jjin

一九六五年生まれ。中国・蘇州大学文学院教授。中国現代文学研究、海外漢学研究、錢鍾書研究。『錢鍾書與現代西学』(増訂本)『陳銓―異邦的借鏡』『另一種声音―海外漢学訪談』

劉麟玉 Liou Lin-yu

一九六六年生まれ。奈良教育大学教育学部准教授。比較音楽教育史、民族音楽学。『植民地下の台湾における学校唱歌教育の成立と展開』『戦時体制下における台湾人作曲家江文也の音楽活動―一九三七年―一九四五年の作品を中心に』『ウオグ・ヤタウユガナ(高一生)の作品のルーツを探って―植民地台湾の音楽教育と先住民音楽の観点を通して』

星名 宏修 Hoshina Hiroobu

一九六三年生まれ。一橋大学大学院言語社会学研究科准教授。台湾文学。「萬華と犯罪―村熊生「指紋」をめぐる」』『読者大衆』とは誰のことか?』

河辺 一郎 Kawabe Ichiro

一九六〇年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。日本の国連政策。『国連と日本』『日本外交と外務省』『国連政策』『日本の外交は国民に何を隠しているのか』

家永 真幸 Ienaga Masaki

一九八一年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程。中国近現代史。「故宮博物院をめぐる戦後の兩岸対立（一九四九—一九六六年）」「南京国民政府期における中国」「バングラ外交」の形成（一九二八—一九四九）」

樋泉 克夫 Hizumi Katsuo

一九四七年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。京劇史、華僑・華人史。「死体」が語る中国文化』『華僑烈々』『京劇と中国人』

湯原 健一 Yuhara Kenichi

一九八〇年生まれ。愛知大学大学院中国研究科博士後期課程。日本植民地史。「石本鑽太郎の軌跡」

三澤 真美恵 Misawa Mamie

一九六四年生まれ。日本大学文理学部教授。台湾史。『帝國』と『祖國』のはざま—植民地期台湾映画人の交渉と越境』『殖民地下的（銀幕）—台湾総督府電影政策之研究（一九五—一九四二年）』『戦後』台湾における『日本映画見本市』—一九六〇年の熱狂と批判

翻訳者紹介

田上 智宜 Tanoue Tomoyoshi

東京大学大学院総合文化研究科博士課程。台湾多文化主義、エスニシティ。「客人」から客家へ—エスニックアイデンティティの形成と変容—「客家基本法からみるエスニシティ概念の変化—象徴的エスニシティの積極的承認—」多文化主義言説における新移民問題

周 俊宇 Jhou Jyun-yu

東京大学大学院総合文化研究科博士課程。台湾近現代史。

岩口 敬子 Iwaguchi Keiko

台湾・政治大学台湾史研究所修士。台湾近現代史。

松井 直之 Matsui Naoyuki

首都大学東京法科大学院助教。憲法学。『高校から大学への憲法』（共著）『台湾女性史入門』（共著）『確認 中国法用語250』（共著）『二〇〇四年中華人民共和国憲法改正における「人權」の意味—「中国の人權状況」の再検討』

杉本 史子 Sugimoto Fumiko

立命館大学非常勤講師。中国近現代女子教育史。「一九二〇年代中国における家事科教育—女性と家庭とをめぐって—」「中国近代における家事科教育—その導入と抵抗—」「新文化運動後期における女子学校の「学潮」と女生—『民國日報』とその副刊の報道を中心として』

小笠原 淳 Ogasawara Jun

神戸大学大学院人文学研究科博士後期課程。中国語圏の同時代文学。「王蒙小説に見られるソヴェト文学的表現について」「『文學雜誌』と『現代文學』—二誌を通して見る五、六〇年代台湾文学のモダニズム意識—再創造される現実—侯孝賢をめぐる台湾映画の諸相—」

豊田 周子 Toyoda Noriko

関西学院大学非常勤講師。台湾文学。『台湾民間文学集』故事篇にみる一九三〇年代台湾新知識人の文化創造』『胡志明』から『アジヤの孤児』へ―その改編をめぐる―『潜在創作』としての呉濁流『胡志明』論』

嶋田 聡 Shimada Satoshi

大連外国語学院日本語教師。台湾近代史。二位『本土精英』眼中の一九三〇年代台湾文壇―初探黃得時的文芸評論』

范姜 惠琳 Fanchiang Hueylin

一橋大学大学院言語社会学研究科博士課程後期課程。言語社会学および台湾客家史。

杉村 安幾子 Sugimura Akiko

金沢大学外国語教育研究センター准教授。中国現代文学。二十にして狂ならざるは志気没し―錢鍾書『写在人生边上』と『圍城』―『錢鍾書』『圍城』解説?―恋愛と結婚に見る『近代』神話』『錢鍾書と父親』たち』



中国 21 Vol. 37 予告 (12年9月刊予定)
特集●中国水利史(仮題)

中国史において、水利の問題は治水灌漑に対する国家や地域社会の関わりについて、古くはウイットフォードの水の理論をはじめ、多くの研究者の関心を集めてきた。歴代の王朝およびその時代の地域社会は特色ある治水灌漑策を行い、水利組織を作ってきた。この面で日本の水利史研究は膨大な研究を行ってきた。一方中国においては、最近北京師範大

学とフランスの極東学院が共同して陝西・山西地区を対象にして「水資源と社会組織」に関する大規模なフィールドワークをし、膨大な歴史資料や口述資料の収集を行うなど最近の進歩はめざましい。

本特集では、日本の水利史の専門家の論考と中国の気鋭の専門家の論考で水利史の問題を多面的に論じたい。

【座談会】森田明×藤田勝久×松田吉郎
【論説】藤田勝久、鶴間和幸、伊藤敏雄、森田明、濱島敦俊、松田吉郎、馮賢亮、鈔曉鴻、張俊峰、野口武、馬場毅ほか